



薬学部2年(執筆時1年)
三好 瑞希 (みよし みずき)



剣道部女子部員での集合写真(筆者右)

私は徳大薬学部一年の三好瑞希です。愛媛県立新居浜西高校出身の何の変哲もない普通の大学生です。これまでの執筆の方とは違い、留学などしていませんし、そういう意味でいえば消極的なほうかもしれません。変わっていることは薬学部一年総代をしていること、剣道部だということです。私の変わっている部分に関連して大学生活で大事にしていること2つを紹介したいと思います。

受けに行ったり、専門教科の勉強で頭を悩ませたり…。そんな生活の合間に薬学部の色々な活動に参加させていただいています。特に高校生一体験入学の際にお手伝いをしたこと、薬物乱用防止指導員として活動させていただいたことがいい経験になったと思っています。私がやっている総代は学級委員のようなもので色々な仕事が行ってきます。そんな中でも人と関わることができる活動は、消極的な私でも総代に立候補してよかったと思うことができます。私が大学生活で最も大切にしたいの

は出会いです。私は少しの勇気で出会いを広げることができました。この記事を読んでいる方にも日常の小さな一期一会も大切にしたいだけ嬉しです。

私が普通の薬学部生と違うところはもう一つあります。それは剣道部だということです。現在、剣道部に所属する薬学部生は2人になってしまい、剣道部内でもますます希少種になってしまいました。それでも剣道部を続けているのには理由があります。私の所属する蔵本剣道部は少し変わっていて、医療系ではない学部の学生も

所属しているので多様な価値観に触れることができます。そのような中で自分を磨くことができ、自分なりに成長できていると実感できます。また、他大学の方と試合や合宿によって交流できてひきこもっていたらできない体験をしています。日々、文武両道はやはり難しいなと感じながらも部活をしていてよかったですと思います。私がこの記事を読んでいる方に伝えたいもう一つのは、何か夢中になれることを見つけてほしいということです。私は今、剣道の魅力に取りつかれています。今までも好きでしたが、大学で部活を通してもっと好きになりました。勉強以外にも何か一つでも夢中になれることを見つければ徳島大学に来てよかった!と思える瞬間がきっと訪れます。



剣道部で蔵本祭前夜祭で優勝したとき(筆者左)



薬物乱用防止指導員の活動の様子

先輩に 続け

徳島大学病院 麻酔科
阿部 夏季 (あべ なつき)



麻酔科 学会発表にて

ています。将来どんな科に進むにしても、救急対応ができる医師になりたいと思います。初期研修先として徳島赤十字病院に応募し、運良く採用していただくことができました。「断らない救急」を掲げ、救急車の受け入れも多い徳島赤十字病院で過ごすことで、自分の希望通り重症患者や急変患者への対応をしっかりと学ぶことができました。他にも様々な科で勉強させて頂きましたが、ひとつの臓器を診るよりも全身管理に興味を持ち、専門を麻酔科にすることを決めました。

以外の患者さんの全身をみるのが仕事であり、必要な知識の範囲が広くまだまだ勉強不足ですが、その分自身の成長の幅は大きくやりがいを感じています。手術室での麻酔以外にも、ペインクリニックという慢性痛への治療や、集中治療、救急医療など専門が分かれていくため、若手のうちに貪欲に幅広い分野に手を出し、知識を深めながら自身の適性を見極めていければと思っています。

室で仕事をしています。手術の間、患者さんの頭もとに立ち、患者さんの苦痛がないよう鎮静・鎮痛を行い、血圧などの循環動態や呼吸状態を正常に保ち、出血に応じて輸血や点滴を行っています。手術で外科の先生方が病気を治してくれている間に、それ

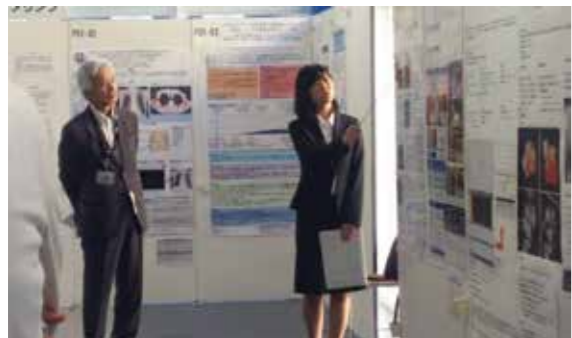
大学を卒業した後、いくつかの岐点がありました。どの科になるか、どこで働くか、ずいぶん悩み苦しい思いをした時期もあります。同じような就職活動を行っている皆さんへのメッセージとしては、とにかく色々な場所へ見学に行くことをお勧めします。選択肢は多いに越したことはありませんし、全く違う場を訪れることで自分の視野が広がり、さらに良い選択をできるようになるはずですよ。見学のために出かけた時、知らない人と話したりするのは少し億劫になるかもしれませんが、旅行気分でもよいのでたくさん場所を訪れ、その中で自分のベストを見つけてくれればと思います。皆さんが自分の望んだ未来に進めるよう、心から応援しています。

私は平成27年3月に徳島大学医学部医学科を卒業しました。徳島赤十字病院で2年間の初期研修を終え、平成29年4月から徳島大学病院で後期研修をさせていただいています。

た身としては就職を機に県外に出ることも考えましたが、最終的に地元の医療に貢献することになりました。始めの頃は社会人として慣れない日々が続いていたので、知らない土地で苦労するよりも徳島に残っていて良かったなと思っ

す。手術の間、患者さんの頭もとに立ち、患者さんの苦痛がないよう鎮静・鎮痛を行い、血圧などの循環動態や呼吸状態を正常に保ち、出血に応じて輸血や点滴を行っています。手術で外科の先生方が病気を治してくれている間に、それ

大学を卒業した後、いくつかの岐点がありました。どの科になるか、どこで働くか、ずいぶん悩み苦しい思いをした時期もあります。同じような就職活動を行っている皆さんへのメッセージとしては、とにかく色々な場所へ見学に行くことをお勧めします。選択肢は多いに越したことはありませんし、全く違う場を訪れることで自分の視野が広がり、さらに良い選択をできるようになるはずですよ。見学のために出かけた時、知らない人と話したりするのは少し億劫になるかもしれませんが、旅行気分でもよいのでたくさん場所を訪れ、その中で自分のベストを見つけてくれればと思います。皆さんが自分の望んだ未来に進めるよう、心から応援しています。



麻酔科学会にて発表する筆者



徳島赤十字病院での初期研修